

## 「日中友好と交流の集い」（日中伝統美食の饗宴）開催

当会恒例の中国総領事館と共催の「日中友好と交流の集い」は、2月27日約80名(総領事館員20名含む)の参加を得て総領事館内で開催されました。今回は、親密な交流を目的に人数制限を行い、更に2部構成で開催しました。

1部は、餃子と寿司に代表される「中日食文化の知識の習得と体験」と題して、約1時間開催されました。司会の馮帆領事の紹介で劉馳領事(右写真)から「餃子の起源・薬から一般食へ・何故春節や祝い事時に食べるのか」等詳しい説明があり、その後各領事の指導の下テーブルに別れ餃子の皮延ばし、具材詰め体験を行いました。餃子作りは、中国人は得意とっていましたが、不得手の方もいること、また寿司職人は流石に飲み込みが早く上手い、各テーブルでは領事からの手解きを受けながら、笑いが絶えなかった。次に、がんこフード松本部長より寿司材料を持ちながら寿司文化の紹介があり、更に中国人に限定した「握り講習会」が行われました。寿司職人の泉井さんの指導により、孫忠宝副総領事筆頭に握り体験が始まる。シャリ1貫15グラムの感覚が掴めない為に各自大きさは違うが、自分の握り寿司ができて満足した顔があふれていました。

2部は、餃子・寿司・北京料理を食しながらの懇親会。最初に総領事館孫忠宝副総領事(右写真)より歓迎と当会に対する深い信頼関係を表すお言葉を頂きました。次に見本会長の戦後70年を迎えた新たな友好活動への決意の挨拶と乾杯を行い、懇親会がスタートしました。総領事館張料理長の本場の北京料理と餃子、また道頓堀本店泉井さんの寿司がテーブルに並び、それを各テーブルに運び懇談会が和やかに行われました。今回は限られた人数での懇親であり、また副総領事始め新しく着任された領事の方も多く、名刺交換等活発に行われ、更なる友好に向け相互理解ができました。

総領事館出席者全員の紹介も行われ、記念撮影・食事・懇談がスムーズに進み、最後に清瀬副会長の閉会の挨拶を持って、無事に「日中友好と交流の集い」を終わりました。

尚、総領事館員の皆様には会場準備・後片付け等大変お世話になりお礼申し上げます。

